

# 岩手県立 博物館 だより

Newsletter of the Iwate Prefectural Museum  
 岩手県立博物館ホームページアドレス  
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

2021.12 No. 171

目次/テーマ展「教科書と違う岩手の歴史-岩手の弥生~古墳時代-」  
 表紙/いわて文化ノート 紙資料への脱酸処理の有効性p.2-3/展覧会  
 案内「教科書と違う岩手の歴史-岩手の弥生~古墳時代-」 p.4-5/事  
 業報告 開館40周年記念特別展開連事業 高校生による郷土芸能特別  
 公演/事業報告 ナイトミュージアム~くらやみの中から語りかける  
 資料を巡る~p.6/活動レポート トピック展 岩手と世界のカブトム  
 シ・クワガタムシ/活動レポート 令和3年度博物館館園実習p.7/イ  
 ンフォメーションp.8

岩手県立博物館 令和3年度 テーマ展

## 教科書と違う 岩手の歴史

—岩手の弥生~古墳時代—

提供 佐賀県地域交流部  
 文化・スポーツ交流局  
 文化課文化財保護室  
 画 早川和子

弥生~古墳時代、稲作や金属器  
 など最先端の技術が大陸から伝  
 わり日本は文明化の道を歩み始  
 めたと教科書では教えます。  
 しかし、朝鮮半島から遠く、ヤマセ  
 が吹いて稲作に向かない岩手の  
 地ではどうだったでしょうか。

2021 11.23(火・祝) → 2022 02.06(日)

主催：岩手県立博物館・公益財団法人岩手県文化振興事業団 会場：岩手県立博物館 特別展示室

● 観覧料  
 9:30 ~ 16:30 (入館は16:00まで)  
 ● 公開中の休館日  
 2021年11月29日(日)  
 2021年12月6日(日)・13日(月)・20日(月)・27日(日)  
 2021年12月29日(水)~2022年1月3日(日)  
 2022年1月11日(金)・17日(金)・24日(金)・31日(金)

● 入館料  
 一般310円(140円)・学生140円(70円)・高校生以下無料  
 ※ ( )内は20歳以上の団体割引料金  
 ・学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は申請により入館料  
 免除となります。  
 ・障害者手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ち  
 の方、福祉手帳をお持ちの方は無料です。  
 ・岩手県子育て応援パスポート所持者で、パスポートに記載のある  
 お子様とご一緒に来館された場合、入館料免除となります。

岩手県立博物館  
 IWATE PREFECTURAL MUSEUM  
 〒020-0102 岩手県盛岡市上野町芝田3-1 TEL 019-661-2831 FAX 019-665-1214  
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

## ■いわて文化ノート

## 紙資料への脱酸処理の有効性

常勤契約職員 山崎 遙 (文化財科学部門)

## ■紙の安定化処理とは

岩手県立博物館を正面に見て右側に、「陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設」という仮設の建物があります。2011年の東日本大震災で大きな被害を受けた、陸前高田市立博物館が所管する紙資料の安定化処理と修理を行っています。安定化処理とは資料を長期にわたって安定して保管できるようにするために行う処置で、具体的には、海水をかぶった紙を医療用の中性洗剤を溶かした水で洗うことで、資料に付着したたんぱく質や塩分などを取り除きます。その後、洋紙は酸性化を防ぐために脱酸処理をし、そして欠損部分を修理していくという流れです。今回はこの工程の中の脱酸について書いていきます。

## ■紙の酸性化問題とその対処法

過去に製造された紙資料の中には、印字された文字のインクがにじまないように、紙表面にロジン（松やに）がにじみ止めとして使用されていることがあります。このロジンを紙に定着させるために硫酸アルミニウムが使われますが、これは酸性であるため紙自体も酸性に傾きます。さらに硫酸アルミニウムは、空気中の水分と反応すると、硫酸に変化します。硫酸は紙の主成分であるセルロースを分解し、紙の繊維の柔軟性を奪っていきます。紙が古くなり劣化すると固く脆くなるのはこのためです。こうした問題を避けるため、現在の印刷紙は薬剤によって調整された中性紙が主流になっています。

硫酸アルミニウムによる紙資料の酸性化・劣化を抑えるために必要なのが、脱酸処理です。紙にアルカリ化合物を添加することで、紙の中の酸性物質を吸収・中和し酸性化を防ぎます。なお、和紙は製紙工程の中でアルカリ性である灰汁を使いますので洋紙に比べると酸性劣化は少なく、礬水液（どろでえき にかわ）とミョウバンを混ぜ

合わせた水溶液）でにじみ止めが施されていない限り脱酸処理は不要です。

当館での脱酸処理は、平成27年に水酸化カルシウム溶液に資料を浸漬させる方法が行われましたが、作業の効率化を考慮平成29年には酸化マグネシウム溶液を噴霧する方法に切り替わりました。異なる物質で脱酸処理をした資料の状態にそれぞれ変化があるのか、同時期に処理を行った資料の令和2年度時点での現状を調査し、その変化を比較していくことにしました。



水酸化カルシウムによる浸漬脱酸法(上)と酸化マグネシウムによる噴霧脱酸法(下)

## ■脱酸処理後資料の表面状態観察

浸漬法、噴霧法いずれにおいても、紙に添加したアルカリ化合物が乾燥することで水酸化カルシウムもしくは酸化マグネシウムの粒子だけが残り、紙中の酸性物質を中和させます。時間が経過してもアルカリ粒子は残留しているか調べるため、脱酸処理した資料を表紙、本紙、裏表紙とそれぞれ分けて、顕微鏡等で確認しました。

酸化マグネシウム噴霧法で脱酸処理し

た資料は、表面を指で軽くこすると、いずれも指先に白っぽい粉が付着しました。顕微鏡で資料を拡大して見ると、表面に約0.01mm程度の粒子が付着しているのが確認できました。一方、水酸化カルシウム浸漬法で脱酸した資料の表面は、本紙では約0.01mm程度の粒子がわずかに付着しているのが確認できましたが、表紙、裏表紙では確認されず、指で表面に触れても粉状物質は付着しませんでした。この資料とは別の、紙質の異なる資料についても観察を行いました。表紙、本紙、裏表紙どの面でも粒子は確認されませんでした。元々、水酸化カルシウムでの脱酸では、アルカリ性に傾きすぎないように中性程度に薄めた水溶液を使用していたため、これが影響した可能性があります。



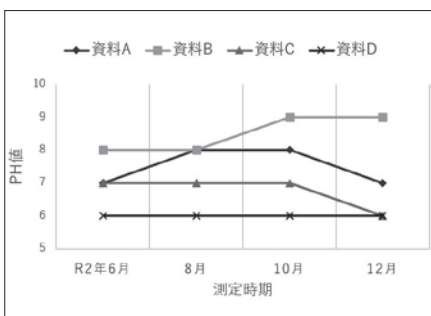
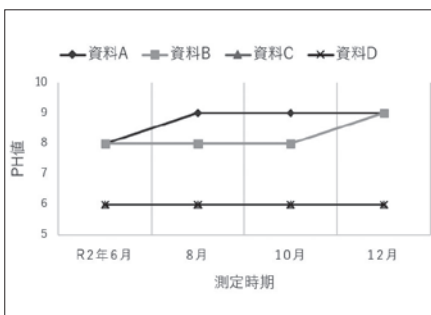
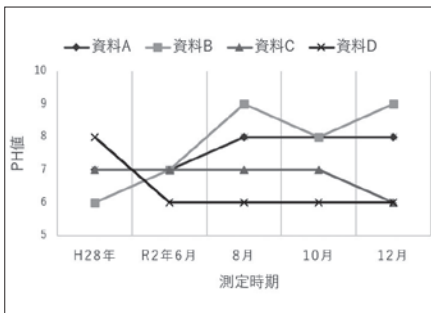
顕微鏡による表面観察

## ■pH測定

pHとは物質の水素イオン濃度を示す指数で、pHの値が7だと中性、7よりも高い場合はアルカリ性、低い場合は酸性を表します。脱酸された資料の表面の状態を調べるため、2か月に1回pH試験紙を用いて資料の各表面を測定し、6月から12月までのpH値の変動を観察しました。なお、脱酸処理直後のpH測定は表紙のみ行っています。

酸化マグネシウム噴霧法によって脱酸した資料では、製本年代が異なる3つの資料を観察対象としました。約7カ月の間で、資料Aはどの面も8月の測定でpH値が上がり、それ以降は裏表紙を除

いて安定していました。資料Bの表紙は8月の測定でpH値が2ポイント上がり、本紙と裏表紙でもpH値が上がった箇所がみられたため、気温上昇によってアルカリ物質であるアンモニアが発生した可能性が考えられました。資料Cは表紙と裏表紙のpHはほぼ中性を示す数値を維持し、本紙は測定開始から弱酸性を示し、変動することはありませんでした。水酸化カルシウム浸漬法による資料Dは、平成28年の脱酸処理直後に測定された表紙のpH値は8を示していましたが、令和2年の1回目の測定では弱酸性を示す6にまで下がっており、そこから12月までの7か月間は本紙、裏表紙共に変動がない状態を維持していました。



各資料のpHの変動：  
表紙(上)・本紙(中)・裏表紙(下)

### ■資料から放出される化学物質の測定

さらに、pH測定とは別の方法で脱酸処理の有効性を確認するため、有機酸及びアンモニアガスの濃度を測定しました。酢酸、ギ酸を含む有機酸は、顔料の変色の要因となり、アンモニアは細菌、バクテリアによって作られ、資料の劣化につながります。そのため、東京文化財研究所では空気中の有害物質の上限の目安となる濃度を、ギ酸は10ppb以下、酢酸は170ppb以下、アンモニアは30ppb以下と示しています。今回の調査には簡易的に測定が可能なパッシブインジケータを使用しました。このインジケータは赤色のアンモニア用と青色の有機酸用の2個1対で、それぞれアンモニアを検知すると赤い検知剤が黄色くなり、有機酸を検知すると青い検知剤が緑色に変色します。チャック付きの袋に資料とパッシブインジケータを入れて密閉し、収蔵庫に96時間(4日間)保管した後、インジケータの変色具合を確認しました。

アンモニアガスは、酸化マグネシウム噴霧法、水酸化カルシウム浸漬法いずれの処置を施した資料からも検出されませんでした。また酸化マグネシウム噴霧法による処置資料については、先のpH測定で気温の高い時期にpH値の上昇が見られたため、同一環境下でアンモニアガスの測定を行いました。パッシブインジケータに変化は見られませんでした。このため、pH値の一時的な上昇は、アンモニアの発生による可能性は低いと考えられます。有機酸のパッシブインジケータは、水酸化カルシウム浸漬法による資料Dで青から緑への変色が認められ、有機酸の発生が確認されました。酸化マグネシウム噴霧法による資料A・B・Cについては、それぞれ変色はあったものの、資料Dと比較すると完全変色とまではいかず、有機酸の発生が少ないことが分かりました。



パッシブインジケータによる化学物質の測定

### ■おわりに

水酸化カルシウム浸漬法による資料からは、pH値が約4年間で弱酸性にまで下がり、有機酸ガスの発生が確認されました。今回の調査で見つかった酸性化は、中性程度に薄めたアルカリ化合物を使用したために、経年によって脱酸効果が低下したためではないかと考えられます。

酸化マグネシウム噴霧法による資料では、pH値は中性、アルカリ性に傾きましたが全体的に数値の変動がありました。これは測定時期の温湿度の変化によるものと考えられます。またガスの発生は資料によって多少の変化はあったものの、水酸化カルシウム浸漬法の資料より、有機酸の発生は少ないことが分かりました。

被災紙資料は、その資料自体の紙質や厚さも様々であり、被災した状況によっても状態はそれぞれ異なります。安定化処理でも、水への含浸時間などにわずかな変動があったり、脱酸処理も手作業で行うので、残留するアルカリ粒子の量にもバラつきがあるかもしれません。そうになると、その後の経過状態も資料によって変わってきます。今後はさらに多くの資料を対象として長期的な経過観察を行い、脱酸効果の持続性について追究していきたいと思います。

## ■展覧会案内

## 「教科書と違う岩手の歴史—岩手の弥生～古墳時代—」

会期：令和3年11月23日（火・祝）～令和4年2月6日（日） 会場：特別展示室

弥生～古墳時代、稲作や金属器など最先端の技術が大陸から伝わることにより、日本は文明化の道を歩み始めた教科書では教えます。しかし、朝鮮半島から遠く、ヤマセが吹いて稲作に向かない岩手の地ではどうだったでしょうか。なお、現在の教科書は、当時の北海道と沖縄には、以上とは別の歴史があったことにふれています。

東北地方北部でも、暖流が流れて夏の暑さが期待できた青森県津軽地方では、関東・中部地方より早く稲作が開始されますが、弥生時代中期中ごろの大洪水で止めてしまいます。逆に、太平洋側の岩手でも、ヤマセの影響の少ない胆沢川下流域では、この時期に稲作が始まったようで、古墳時代の角塚古墳に結実します。この地域に限れば、岩手でも教科書に近い歴史が見られたのです。

## ■弥生時代末～古墳時代中期の岩手

東北北部で教科書と異なり歴史上最も特異な時期のひとつが、弥生時代末～古墳時代中期です。歯切れの悪い表現になるのは、中央の時代の画期と合わないからです。

弥生時代後半から気候の寒冷化が始まり、やがて「古墳寒冷期」と呼ばれる地球規模の寒冷期を迎えます（図1）。暮らしにくい環境の中、東北北部

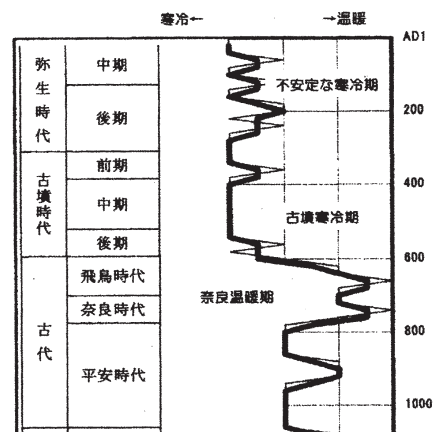


図1 弥生～平安時代の気候の変化  
(八木光則氏原図)

では遺跡数が激減しますが、弥生時代末期になると、岩手県を中心にした地域では遺跡が一時的に増加します。しかし、発見されるのはほぼ土器のみで、集落跡はほとんど見つかりません。

この時期の東北北部の遺跡で特筆されるのは、地元の土器（赤穴式）と一緒に北海道の土器（後北式）（図2）が出土することです。他の地域のものに似た土器が見られるのは縄文時代以来それほど珍しいことではありませんが、本場のものとは区別できない土器がこれほど大量に出土する時期は他にはありません。そして、北海道札幌市でも、こちらの赤穴式と区別できない土器が出土しています（図3）。



図2 札幌市K135遺跡の後北式土器  
(札幌市教育委員会蔵)



図3 札幌市K135遺跡の赤穴式土器  
(札幌市教育委員会蔵)

どちらから出土しても、後北式は丁寧に作られ、壊れた場合には修理されていることが多い（補修孔）のに対し、赤穴式は薄く、雑に作られ歪んでいることも多く、修理されません。技術力のある北海道の人がわざわざ手を抜いて赤穴式を作ったとは思われず、その逆も、可能だとは考えにくいです。

本来その地域にない土器は他から持ってきたと考えるのが自然ですが、この時期の本州の後北式はあまりに多く、津軽海峡を渡って運んできたとするのは現実的ではありません。移民が到着した場所で作ったと考えるべきでしょう。稀に見られる本来の土器との僅かな違いから、地元の人が真似して作ったとする研究者もいますが、いたずらして、本州出土の後北式を北海道に、北海道出土の赤穴式を本州に持っていても、判別できる研究者はいないと思います。

この時期の本州への大量移民の痕跡として考えられるのが、アイヌ語地名です。特に、ベツ（別）、ナイ（内）のつく地名の広がり（図4）は、後北式の分布（図5）とほぼ一致しているように見えます。「ベツ」は川、「ナイ」は沢を意味し、河川漁労（特にサケ）を主たる生業の一つとしていた移民の関心の強さが、あまり関心のなかった当地の地名に刻まれ、今に残ったのかもしれない。

それでは、なぜ、北海道から多数の移民があったのでしょうか。この時期急速に普及し始めていた鉄製品の獲得が目的だったとする説が強く唱えられていますが、この時期の東北北部にそれほどの量の鉄製品があったとは考えられず、むしろ鉄製品は北海道の方が古くからありました（北からの入手?）。温暖さを求めてとする説もありますが、北海道からの移民は、北の千島列島にも向かっています。

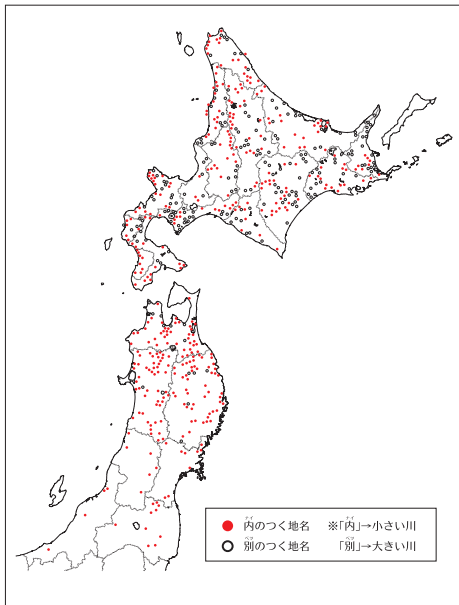


図4 アイヌ語地名の分布  
(菊池徹夫氏原図)

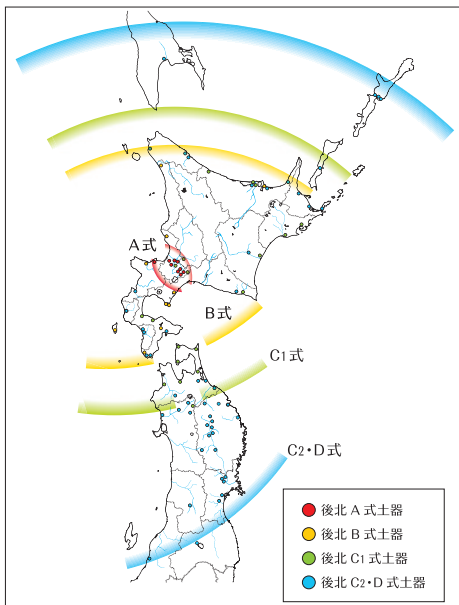


図5 後北式土器の分布 (江別市郷土資料館原図)  
※後北式は、A、B、C<sub>1</sub>、C<sub>2</sub>・D式に細分され、  
岩手にまで広がるのは、C<sub>2</sub>・D式の時期。

この時期から飛鳥時代まで、東北北部では黒曜石製石器の出土が目立ちます。脂肪をかきとり毛皮に加工するために使われ、毛皮を古墳文化の品々と交換していたようです。こうした文化自体も北海道から伝わった可能性が高いです。北海道は元々冷涼な気候で寒さにうまく適応していたことが、後北

式土器の出来栄から窺えます。これに対し、東北北部はうまく適応できていなかったことが、遺跡数の激減、赤穴式土器の出来の悪さから窺えます。毛皮を得るためには広い範囲にわたり獲物を探して移動しなければならないので、その生活の中で、あまり狩猟や毛皮加工が活発でなかった東北北部にまで進出してきたのかもしれませんが、あるいは“技術指導”の名目で東北側が招いたのかもしれませんが、いずれにしろ重要なのは、土器の出土状況からわかるように、移民が地元の村にすぐに受け入れられていることです。

後北式の影響は、墓にも見られます。円～楕円形の穴で、底などに柱穴状の小穴、側面に袋状の小穴を持つことを特徴とし、上屋があった可能性が高いです。埋め土や袋状小穴から土器が出土することが多いですが、北海道系の土器だけでなく地元の土器も見られ、後述のように北海道系の土器がほとんど見られなくなってからも、本州の土器を使って墓の伝統自体は6世紀まで続きます。

後北式の文化では、獲物を追いかける生活をしていただけ、竪穴住居跡はあまり発見されません。東北北部でも同様で、竪穴住居跡が発見されても、一つの遺跡で一棟程度に過ぎず、その竪穴も小さくて丁寧に掘られておらず、本当に住居であったか定かではありません。

そんな中、岩泉町豊岡V遺跡<sup>5</sup>では、10棟もの竪穴住居跡が発見されました(図6)。炉もあり、住居であることは間違いないですが、なぜ他と比べて多数あったのかわかりません。矢じりやクリなどの炭化物が多数発見され、糸をつむぐ土製紡錘車が発見されなければ、縄文時代の遺跡としか思えませんでした。

後北式の文化は、土器が多少変化し



図6 岩泉町豊岡V遺跡の集落跡  
(岩泉町教育委員会提供)

ても(北大式)、5世紀(古墳時代中期)までは続き、一部はその後も残ります。

#### ■その後の岩手

北海道の土器は、6世紀(古墳時代後期)になると突然見られなくなります。

7世紀(飛鳥時代)には、東北北部でも、方形でカマドのある、古墳文化に起源を持つ竪穴住居が多数造られ、集落跡が再び普通に見られるようになります。気候の回復が原因である可能性が高いです(図1)。岩手では、この時期から平安時代初めにかけて、西の古墳文化のものとは異なる古墳が多数造られるようになります。東北北部で「古墳」と呼ばれるもののほとんどは、この時期のもので、仏教の影響が強くなり始める中央の歴史とは異なりますが、そうした意味では他の地方も同様で、岩手も教科書と似た歴史と言えます。

次の、エミシから奥州藤原氏の時代までは、中央とも他の地方とも違う歴史を歩みますが、教科書に載っていません。そして、藤原氏滅亡以後の歴史は、意外なほど教科書どおりです。詳しくは会場で御覧ください。なお、旧石器～縄文時代は、あまり細かいことはわからないためでもあります。ほぼ教科書どおりです。

(学芸第一課長 金子 昭彦)

## ■事業報告

## 開館40周年記念特別展開連事業 高校生による郷土芸能特別公演

開催日：令和3年7月24日（土）・31日（土）

当館では、開館40周年記念特別展開連事業として「高校生による郷土芸能特別公演」を数多くの伝統芸能が残っている沿岸地域の4つの高校を招聘し、7月24日、31日に正面玄関前アプローチにおいて開催しました。24日は釜石商工高校虎舞委員会16名による勇壮な虎舞「商工虎舞」、<sup>は</sup>「跳ね虎」、<sup>でさば</sup>「笛喰み」と宮古水産高校太鼓部7名による鼓動が響き渡った和太鼓「翔洋」、「潮騒」が披露されました。この日の午後は最高気温34℃、快晴のもと行われましたが、両校の生徒からは気温以上の熱気が伝わりました。観覧者68名。

31日は岩泉高校郷土芸能同好会24名による五穀豊穰、家内安全、大漁を祈願して踊る勇壮活発な舞い「中野七頭舞」、<sup>なかの ななす</sup>「手踊り道具取り」と旧大船渡農業

高校時代に大農太鼓として発足し、高校統合後も伝統を受け継いだ大船渡東高校太鼓部10名による「天の川」、「長安寺ばやし」、「大農太鼓」が披露されました。この日は最高気温こそ30℃でしたが、<sup>あいにく</sup>生憎の雨。告知では雨天中止でしたが、開演を待ち望む観覧者からの「開催しますよね」という多くの声と両校の「土砂降りでも演じます」という力強い言葉に押される形で開催しました。観覧者76名。

今回招聘した沿岸の4校は、例年は自校の文化祭、他校文化祭からの出演依頼、地域の祭りやイベントへの出演、岩手県高等学校総合文化祭、全国高等学校総合文化祭などに出場するなど多方面で活動しています。しかし昨年からのコロナ禍で、多くの行事の中止・縮小が相次

ぎ、高校生たちが大きく羽ばたく機会が失われていました。各校の校長先生からは公演後の生徒たちの目が輝いていたと異口同辞に頂きました。地域を活性化するため必要なのはマンパワーです。今回招聘した生徒たちが復興の担い手となり、沿岸地域を盛り上げてくれることを期待します。

(主任専門学芸調査員 菅野 誠喜)



宮古水産高校太鼓部

## ■事業報告

## ナイトミュージアム ～くらやみの中から語りかける資料を探る～

開催日：令和3年8月6日（金）・7日（土）

8月6日・7日の両日、ナイトミュージアムが開催されました。ナイトミュージアムは、閉館後、照明を落とした展示室を懐中電灯を灯しながら学芸員と共に歩き、普段とは違った雰囲気の中を体験してもらうイベントです。昨年はコロナウイルス感染症の影響で中止となり、今年は2年ぶりの開催になりました。

参加証の「光るブレスレット」を手首に巻き、いよいよスタートです。

まずは地質部門。光の三原色の実験です。光の不思議を体感してもらいました。蛍光鉱物にブラックライト（紫外線）を当て観察も行いました。暗闇に浮かび上がる淡い色合いを放つ鉱物たちは、大変神秘的なものでした。

生物部門では、暗闇から響く鳥の鳴き

声が参加者を出迎えました。何とも言えない不気味さと怖さを感じながら、声の主である鳥の剥製に懐中電灯の光を当てます。さながら夜の森の様子を再現したような雰囲気に包まれました。

遮光器土偶に扮した学芸員が出迎えたのは、考古分野です。アンケートを拝見すると、古墳の解説に興味を抱いた方が多かったようです。様々な情報を含む古墳の魅力に触れていただきました。

歴史部門では、武士・農民・南部藩そしてお米について、様々なエピソードを交えたテンポの良い解説に終始和やかな雰囲気に包まれていました。

民俗部門での小学生の盛り上がりは印象的でした。暗闇の中に隠れる妖怪を探しながら百鬼夜行の解説です。当館学芸員製作の妖怪シールのお土産もあり、満

足りただけのご様子でした。

今年は感染症対策のため、参加人数を減らしての実施になりました。もっとたくさんの方に体験していただきたいイベントです。来年こそは通常開催ができるようお願いしたいと思います。

(専門学芸調査員 佐藤 修一郎)



“遮光器土偶”から解説を聞く参加者の皆さん

## ■活動レポート

## トピック展 岩手と世界のカブトムシ・クワガタムシ

展示期間：令和3年7月6日（火）～8月15日（日）・9月18日（土）～9月30日（木）

岩手県に生息するカブトムシとクワガタムシの全種あわせて15種と、外国産約70種を展示する夏休み恒例のトピック展。毎年これを楽しみに来館する方もいる人気の企画です。珍しい種類を見て楽しむだけでなく、自分で捕まえたときに種類がわかるようになる、クワガタムシの見分け方の解説パネルも見どころの一つです。



展示の様子

また、今年は生きているヘラクレスオオカブトとババオウゴンオニクワガタをお借りして、生体展示をすることができました。世界最大のカブトムシとして有名なヘラクレスオオカブトは、子どもも大人も、さらに職員にも大人気でした。また、オウゴンオニクワガタにも熱烈なファンがいて、「これが見たかった！」と大喜びした小学生もいました。



ヘラクレスオオカブトの生体展示

8月末まで生体展示を続ける予定でしたが、16日から岩手県独自の緊急事態宣言に伴う臨時休館となってしまったため、残念ながら早期終了となってしまいました。好評でしたので、できれば来年も展示したいと思います。

（専門学芸員 渡辺 修二）



ババオウゴンオニクワガタ

## ■活動レポート

## 令和3年度博物館館園実習

開催日：令和3年8月19日（木）～26日（木）

8月19日～26日（月曜休館日を除く）に当館で博物館館園実習を行いました。今年は実習直前の8月12日に岩手独自の緊急事態宣言が発令されたことにより実施が危ぶまれましたが、予定通りに開催できました。今年度は岩手県内の大学生を中心に5名の実習生を迎え入れ、全日程を無事に終了することができました。

博物館には、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他関連する事業を行う学芸員という専門職員が必要です。博物館法では「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得」とあり、博物館に関する科目を履修し単位を取得すると学芸員の資格を得ることができます。博物館に関する科目の中

には大学での講義だけでなく、現場での実習が含まれるため、当館でも毎年博物館実習を実施し、これまでも数多くの実習生を受け入れてきました。当館は地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学それぞれに専門の学芸員がいるため、これらの講座はもちろんのこと、解説員による講座、総務課からの講座など総合博物館ならではの多分野にわたる充実した実習内容となっています。

解説員による研修では、各々が選んだある1つの展示品の解説文を考え、展示室で模擬解説会を行いました。説明する上での聞きやすさや、わかりやすい説明の構成等を熟慮している様子が窺えました。歴史部門の講座では、甲冑の展示替えを行いました。普段見慣れたもののようであっても実際に展示をするにはどう

いうことに気をつけなければならないのかを学び取っていました。民俗部門の講座では、民具の解説動画制作を行いました。動画の構成・台詞・撮影等を学芸員の手ほどきを受けながら実習生自身で構想し、大変すばらしい作品を完成させることができました。その他、キャプション制作や展示ケースの組み立て、梱包作業なども体験し、学芸員の職務の幅広さを実感しているようでした。休館中ということで来館者もなく変則的で異例な実習となりましたが、実習生のみなさんも受け身ではなく自ら学ぼうとする姿勢が見られ、実りある実習になったように見受けられました。

（専門学芸員 昆 浩之）



# 岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

## インフォメーション

〈令和3年12月1日～令和4年3月31日〉

### 新型コロナウイルス感染防止への対応について

新型コロナウイルスへの対応のため、制限を設けながら開館しております。  
 入館の際にはマスクの着用をお願いしております。また手指の消毒、体調確認や体温測定へのご協力をいただいております。  
 混雑する場合は入館や利用を制限し、状況によって臨時休館となることがあります。ご利用を楽しみにいただいている皆様には誠に申し訳ございませんが、ご理解のほどよろしく願います。  
 最新の情報につきましては当館ウェブサイト、SNS等でお知らせいたしますので、ご確認くださいませようお願いします。

- ・「体験学習室」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、土日祝日は閉館することがあります。詳しくはお問い合わせ下さい。
- ・「映像室」は定時上映のみ行い、上映開始後の途中入場はご遠慮いただいております。詳しくはお問い合わせください。
- ・幼児～小学生向けのイベント「たいけん教室」は、定員を減らして開催しています。
- ・団体での入館は午前・午後各100名程度までとします。解説時は30名まで受け付け、さらに数グループに分かれていただくことがあります。

### お知らせ

#### ●年末年始の休館について

年末年始は12月29日(水)～1月3日(月)まで休館します。

### 展覧会

#### ●テーマ展「教科書と違う岩手の歴史ー岩手の弥生～古墳時代ー」

令和3年11月23日(火・祝)～令和4年2月6日(日)

会場：2階・特別展示室

岩手県立博物館では、なぜ銅鐸や人物埴輪を展示しないのでしょうか。教科書と違う岩手の歴史を紐解きます。

#### ◆展示解説会

①11月23日(火・祝)②12月25日(土)③令和4年1月16日(日)

各回とも14:30～15:30 会場：特別展示室 当日受付 要入館料

#### ◆県博日曜講座

12月12日(日)13:30～15:00 地階・講堂 聴講無料

「教科書と違う岩手の弥生時代」 講師：金子昭彦(展覧会担当学芸員)

12月26日(日)13:30～15:00 地階・講堂 聴講無料

「北と南からみた岩手の古墳時代」 講師：井上雅孝氏(滝沢市教育委員会)

#### ●テーマ展「金田一家収蔵資料展ー金田一勝定を中心にー」

令和4年3月5日(土)～5月8日(日)

会場：2階・特別展示室

### 県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

\*展覧会関連講座

\*12月12日「教科書と違う岩手の弥生時代」講師：金子昭彦(当館学芸員)

\*12月26日「北と南からみた岩手の古墳時代」

講師：井上雅孝氏(滝沢市教育委員会)

\*1月 9日「角塚古墳はなぜ作られたのか？ー古墳文化北進の背景ー」

講師：高木 晃氏((公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター)

\*1月23日「教科書に載らない！古墳～飛鳥時代における東北北部の産物

～琥珀・皮革・海産物から探る交流史～」

講師：米田寛(当館学芸員)

2月13日「南部藩領内の温泉ー湯治の文化誌ー」

講師：近藤良子(当館学芸員)

2月27日「高山を利用する二ホンジカの行動」

講師：鈴木まほろ(当館学芸員)

\*3月13日「世界の中の岩手ー金田一国土の時代ー」

講師：工藤 健(当館学芸員)

\*3月27日「金田一勝定と国土が現在に残したもの」

講師：菅野誠喜(当館学芸員)

### 週末の催し

#### ◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30～15:00頃講堂 当日受付 視聴無料

○12月4日 冬休み直前アニメ特集(アニメ/計90分/幼児～小学生向け)

○2月5日 感動映画(実写/計102分/一般向け)ゆずり葉の頃

○3月5日 春のアニメ特集(アニメ/計90分/幼児～小学生向け)

①山に輝くガイド犬平治号(アニメ/28分)

②よっちゃんの不思議なクレヨン(アニメ/22分)

③ぞくぞく村のオバケたち(2話収録)(アニメ/40分)

#### ◆チャレンジ!はくぶつかん (開館日は当館HP等で確認を)

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

12月11日・12日・18日・19日 テーマ：寒(さむ)い

1月 8日・9日・10日・15日・16日 テーマ：北(きた)

2月12日・13日・19日・20日 テーマ：黒(くろ)

3月12日・13日・19日・20日・21日 テーマ：底(そこ)

チャレンジ!マークをさがして はくぶつかんをたんけん!

#### ◆たいけん教室～みんなのためそう～ (事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30

幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生5名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょ。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(9:30～16:30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。1度に3名まで予約可能です。予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

12月	5日	松ぼっくりのXmasツリー	1月	9日	たこづくり
	12日	まゆで干支づくり(寅)		16日	木のごまの絵つけ
	19日	かんたん門松		23日	まが玉アクセサリー
	26日	まゆで干支づくり(寅)		30日	紙コップのあやつり人形
2月	6日	土偶づくり	3月	13日	オリジナル卵をつくろう
	13日	化石のレプリカ		20日	天然石のフォトフレーム
	20日	おひなさまづくり		27日	手づくり万華鏡
	27日	スライムであそぼう			

#### ◆冬のワクワク!ワークショップ(幼児～小学生向け)

令和4年1月8日(土) 詳細は当館HPをご覧ください

### 第2回写真コンテスト 作品募集中!!

テーマ「私の岩手山」 四季折々の岩手山の姿を写真にして博物館に送って下さい。撮影場所は問いません。

応募形式 単写真(A4判 1人3枚まで応募可 機材:白黒カラー不問)

応募方法 当館HPから応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、写真と共に当館総務課宛送付して下さい(持参可)。

応募期間 令和3年6月19日(土)～令和4年2月25日(金)16:30必着  
応募作品は展示の上、優秀作品については表彰します(展示期間・表彰式は未定)

※詳細は当館HPにてご確認ください。

### 展示解説

随時受付しています。

### 利用のご案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

年末年始(12月29日～1月3日)

■入館料 一般310(140)円・大学生140(70)円・高校生以下無料

( )内は20名以上の団体割引料金

※岩手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様と一緒に来館された場合は、入館料免除となります。

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

★日曜講座や各種イベントは人数制限あり、詳細はHPをご確認ください。

岩手県立博物館だより 第171号 令和3年12月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595
------------------------------------	---